

校長室の小窓から・・・

—No.8— 令和7年7月7日（月） 金光八尾中学校高等学校 校長 松井 祥一

科学と社会のつながりを学ぶ ～七夕に寄せて～

「社会に出たら理科は必要ない」と思っている日本の高校生は、米中韓の高校生に比べ、割合が高いというニュースがありました。「とてもそう思う」「まあそう思う」と答えた割合は、日本が45.9%でトップ。韓国は33.5%、米国は27.6%、中国は17.6%でした。一方、「教科書に沿った観察や実験」を高校で、「よくした」「時々した」と回答した割合では、日本は75.2%で、4か国中最高でした。にもかかわらず「理科離れ」と言われて久しいのは、様々な体験を通して学ぶことを軽んじているからではないでしょうか。

学生時代の専攻は万葉集で部活は考古学研究会でしたから、私は全くの文系なのですが、万葉集の自然描写や季節感は気象学や天文学など、古墳の形状や石室の様子は地学などにつながりがあります。「天の川水陰草の秋風になびくを見れば時は来にけり」（柿本人麻呂）のように、七夕伝説を詠んだ歌は多く、万葉人は織姫（ベガ）と彦星（アルタイル）の天体の動きを切ない恋心に掛け合わせていたのです。

私は土日ごとに、トランシットやレベルといった測量機器を使って、古墳の高さや傾斜を細かく調べたり、石室の「紀州青石」と呼ばれる緑泥片岩を調査したり、これはもう歴史というより地学の世界でした。

日曜日の朝、「子ども科学電話相談」というNHK ラジオ番組があります。大学教授や学芸員などの専門家が、小中学生の疑問や質問に丁寧に答える番組です。「国際宇宙ステーションで長期滞在する宇宙飛行士が病気になったら？」と質問した女子中学生がいました。「遠隔手術という手術支援ロボットの研究が、問題解決につながる。5G 通信技術の発展も欠かせない」という先生の答えでした。彼女は「その技術を習得した医師をめざします」と力強く語っていました。

中学の放課後自主活動では、河内堅上の「亀の背地すべり歴史資料室」を見学しました。地すべりのメカニズム、杭や排水トンネルなど地すべり対策工事の内容などを学習する資料室です。いつの日か、本校の卒業生が高度な土木技術を学び、災害に強い国づくりに貢献する人材として成長してくれることを願っています。

